CASBEE®熊本《新築》【 性能表示 】

1-1 建物概要

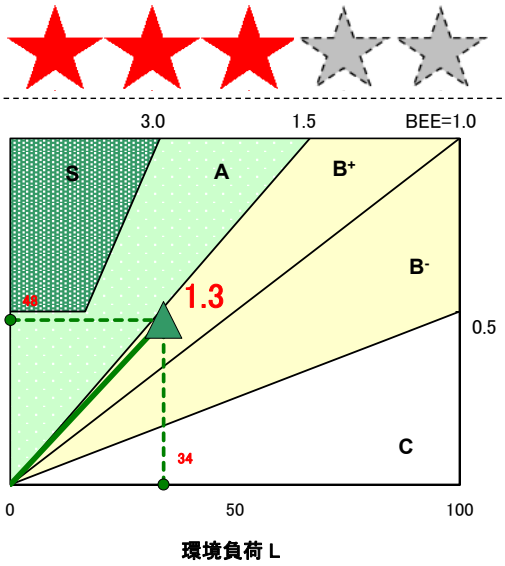
建物名称	人吉下球磨消防組合消防本部・中央	階数	地上2階、地下0階
建設地	熊本県人吉市鬼木町字梢山1769番28、1769番7、1769番6、1751番40	構造	RC造
用途地域等	（白地地域）	平均居住人員	34 人
省エネ：地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2029年8月 予定	評価の実施日	2026年3月15日
敷地面積	15,439 ㎡	作成者	金子 浩美
建築面積	2,865 ㎡	確認日	2026年3月15日
延床面積	3,940 ㎡	確認者	金子 浩美

1-2 外観



2 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率（BEEランク&チャート）



BEE = 1.3

■BEE（環境効率）= Q（環境品質） / L（環境負荷）

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	―
B^+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	―
B^-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	―
C	★	劣る	0.5未満	―

■ ライフサイクルCO_2排出性能（ランク表示）



排出率

77%

■ライフサイクルCO_2 排出性能評価基準

判定値（排出率）	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

3 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

評価点

86



	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	96.7
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	65.0
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	82.5
【重点事項4】 循環型社会の実現	87.7

■熊本県重点評価基準

判定値（評価点）	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®-建築(新築)　評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版　|使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要

建物名称	人吉下球磨消防組合消防本部・中央	階数	地上2階、地下0階
建設地	熊本県人吉市鬼木町字柿山1769番28、1769番7、1769番6、1751番40	構造	RC造
用途地域等	（白地地域）	平均居住人員	34　人
省エネ：地域区分	6地域	年間使用時間	8,760　時間/年（想定値）
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2029年8月　　予定	評価の実施日	2026年3月15日
敷地面積	15,439 ㎡	作成者	金子　浩美
建築面積	2,865 ㎡	確認日	2026年3月15日
延床面積	3,940 ㎡	確認者	金子　浩美

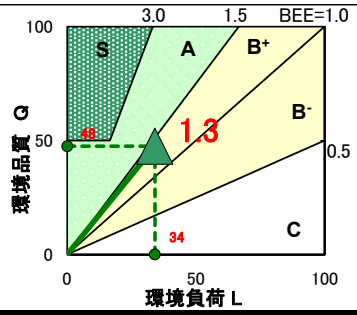
1-2 外観



2-1 建築物の環境効率（BEEランク&チャート）

BEE =1.3

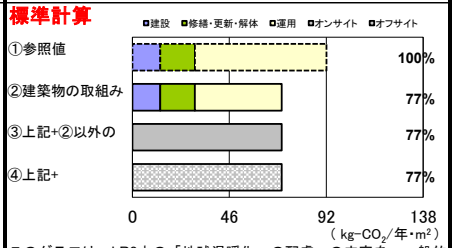
S: ★★★★★　A: ★★★★　B+: ★★★　B-: ★★　C: ★



2-2 ライフサイクルCO_2(温暖化影響チャート)

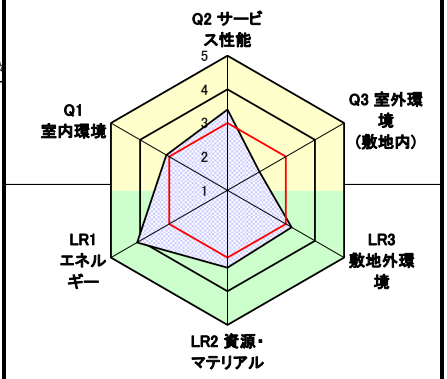
30%: ☆☆☆☆☆　60%: ☆☆☆☆☆　80%: ☆☆☆　100%: ☆☆　100%超: ☆

標準計算



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

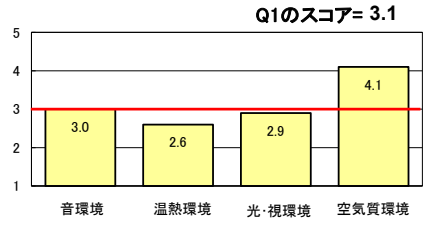
2-3 大項目の評価（レーダーチャート）



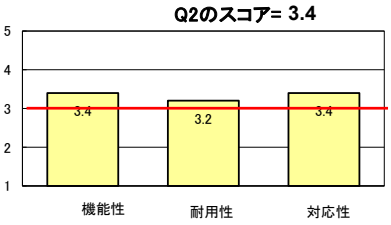
2-4 中項目の評価（バーチャート）

Q 環境品質　　Q のスコア=　2.9

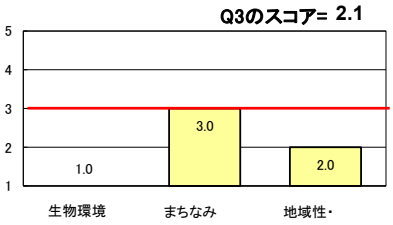
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.1



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.4

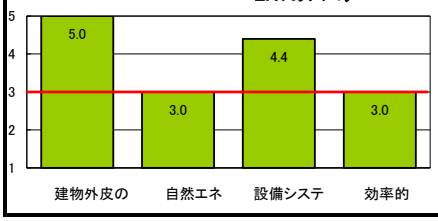


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 2.1

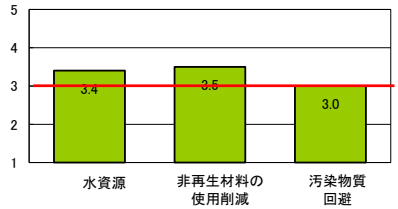


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア=　3.6

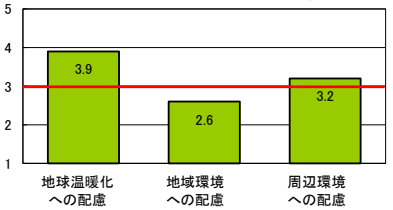
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 4.1



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.3



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.2



3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価

評価点＝　86



重点事項1：温室効果ガス排出量削減の推進　96.7



重点事項2：安全安心で暮らしやすい社会の実現　65.0



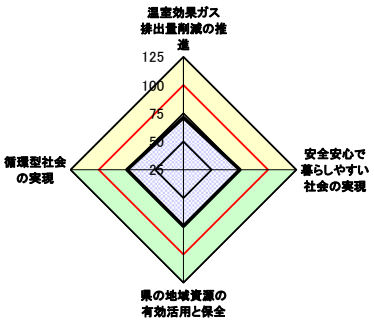
重点事項3：県の地域資源の有効活用と保全　82.5



重点事項4：循環型社会の実現　87.7



重点事項の評価（レーダーチャート）



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
■LCCO2の算定条件等については、「LCCO2算定条件シート」を参照されたい

CASBEE-建築(新築)2016年版
人吉下球磨消防組合消防本部・中央消防署庁舎(庁舎棟)

評価点が3超の項目　水色セル欄に数値やコメントを記入
⇒Q1～Q3シートやLR1～LR3シートにおける採点の根拠に倣って、要旨を記入してください

スコアシート　実施設計段階

配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								2.9
Q1 室内環境					0.40	-	-	3.1
1 音環境				3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-	
	1	開口部遮音性能		3.0	0.60	-	-	
	2	界壁遮音性能		3.0	0.40	-	-	
	3	界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	
	4	界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	
1.3 吸音				3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境				2.6	0.35	-	-	2.6
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-	
	1	室温		3.0	0.38	-	-	
	2	外皮性能		3.0	0.25	-	-	
	3	ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式				3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境				2.9	0.25	-	-	2.9
3.1 昼光利用				1.8	0.30	-	-	
	1	昼光率		1.0	0.60	-	-	
	2	方位別開口		-	-	-	-	
	3	昼光利用設備		3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策				4.0	0.30	-	-	
	1	昼光制御	ブラインド＋庇	4.0	1.00	-	-	
3.3 照度				3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御				3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境				4.1	0.25	-	-	4.1
4.1 発生源対策				5.0	0.50	-	-	
	1	化学汚染物質	F☆☆☆☆、ホルムアルデヒド以外のVOCについても放散量が少ない建材を全面的に採用	5.0	1.00	-	-	
4.2 換気				3.3	0.30	-	-	
	1	換気量		3.0	0.33	-	-	
	2	自然換気性能	0.034≧0.033 (1/30)	4.0	0.33	-	-	
	3	取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-	
	1	CO_2の監視		3.0	0.50	-	-	
	2	喫煙の制御		3.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能				–	0.30	-	-	3.4
1 機能性				3.4	0.40	-	-	3.4
1.1 機能性・使いやすさ				3.3	0.40	-	-	
	1	広さ・収納性		3.0	0.33	-	-	
	2	高度情報通信設備対応		3.0	0.33	-	-	
	3	バリアフリー計画	建築物移動等円滑化基準を満たす	4.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性				3.6	0.30	-	-	
	1	広さ感・景観	天井高3.02m＋窓	5.0	0.33	-	-	
	2	リフレッシュスペース		3.0	0.33	-	-	
	3	内装計画		3.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-	
	1	維持管理に配慮した設計	床面は防汚性の高い仕上げ、床面は適度な水使用可、ホコリの溜まりにくい設計、風除室の扉間3.0m、維持管理方法が異なる床材の接近なし、高耐侯性仕上げ(外壁)、防錆処理	4.0	0.50	-	-	
	2	維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.2	0.30	-	-	3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	
	1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
	2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.8	0.30	-	-	
	1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	高耐侯性仕上塗材	5.0	0.20	-	-	
	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔	2種類以上でB以上を使用し、Eは不使用	5.0	0.20	-	-	
	6	主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-	
	1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性				3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり				4.6	0.30	-	-	
	1	階高のゆとり	階高5.1m	5.0	0.60	-	-	
	2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.130	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				–	0.30	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-		-	3.6
LR1 エネルギー				–	0.40	-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPIm 0.72	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.66	4.4	0.50	-	-	4.4
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
		集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
		集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1	モニタリング		-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				–	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			自動水栓、擬音装置	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.5	0.60	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			–	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			再生クラッシャラン、エコマテリアルケーブル	4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			フリーアクセスフロア、LGS下地、可動間仕切り	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70	-	-	
	1	消火剤		-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
	3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				–	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2:77%	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮				2.6	0.33	-	-	2.6
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	適切な量の駐輪場・駐車場、導入路の位置や数に配慮	5.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
	1	騒音		3.0	1.00	-	-	
	2	振動		-	-	-	-	
	3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制		1.0	-	-		
	3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				4.4	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドライン・広告物照明の扱いを満たす	5.0	0.70	-	-	
	2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

熊本県重点評価結果 スコアシート　※手動入力は不要	実施設計段階
建物名称	*人吉下球磨消防組合消防本部・中央消防署庁舎(庁舎棟)*

■評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)　　■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		86
重点事項	重点項目(配慮項目)	スコア	重み係数	評価点	重点事項重み係数	評価配点
① 温室効果ガス排出量削減の推進				96.7	0.40	38.68
	Q1-2.1.2　外皮性能	*3.0*	0.05			
	Q1-3.1.3　昼光利用設備	*3.0*	0.05			
	Q1-3.2.1　昼光制御	*4.0*	0.05			
	LR1-1　建物外皮の熱負荷抑制	*5.0*	0.15			
	LR1-2　自然エネルギー利用	*3.0*	0.20			
	LR1-3　設備システムの高効率化	*4.4*	0.30			
	LR2-2.1　材料使用量の削減	*2.0*	0.10			
	LR3-2.3.3　交通負荷抑制	*5.0*	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				65	0.20	13.00
	Q2-1.1.3　バリアフリー計画	*4.0*	0.25			
	Q2-2.1.1　耐震性	*3.0*	0.25			
	Q3-1　生物環境の保全と創出	*1.0*	0.15			
	Q3-3　地域性・アメニティへの配慮	*2.0*	0.20			
	LR3-2.2　温熱環境悪化の改善	*2.0*	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				82.5	0.20	16.50
	Q3-2　まちなみ・景観への配慮	*3.0*	0.20			
	LR2-1.1　節水	*4.0*	0.30			
	LR2-1.2.1　雨水利用システム導入	*3.0*	0.20			
	LR2-2.5　持続可能な森林から産出された木材	*3.0*	0.30			
④ 循環型社会の実現				87.7	0.20	17.54
	Q2-2.2　部品・部材の耐用年数	*3.8*	0.30			
	Q2-3　対応性・更新性	*3.4*	0.30			
	LR2-2.2　既存建築躯体等の継続使用	*3.0*	0.10			
	LR2-2.3　躯体材料におけるリサイクル材の使用	*3.0*	0.15			
	LR2-2.4　躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	*4.0*	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点　＝　(各重点事項の評価点×各重点事項の重み係数)の総和

※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点　＝　(各重点項目のスコア×各重点項目の重み係数)の総和×(5/4)×20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4)×20 ： スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

■ 環境関連の配慮事項

印刷:モノクロ
設定済み

・適宜、箇条書き等で記入してください。

・キーボード操作:改行の際は【Alt】キー＆【Enter】キーで次の行に進みます。

	計画上の配慮事項　※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合	施設特性を考慮し、建物外皮性能を高めるとともに、高効率・省エネ仕様の設備を積極的に導入した。
Q1 室内環境	F☆☆☆☆、ホルムアルデヒド以外のVOCについても放散量が少ない建材を全面的に採用し、空気室環境に配慮した。
Q2 サービス性能	床面は防汚性の高い仕上げ、外壁は耐侯性の高い仕上げとし、維持管理に配慮した。
Q3 室外環境 （敷地内）	周辺のまちなみや景観に調和するような建物の配置、形状とした。
LR1 エネルギー	BPIm=0.72 BEIm=0.66
LR2 資源・マテリアル	リサイクル材を使用し、非再生成資源の使用量削減に努めた。
LR3 敷地外環境	適切な量の駐輪場・駐車場、導入路の位置や数に配慮し、交通負荷抑制に努めた。
その他	